

令和5年度 全国学力・学習状況調査結果の分析【私立中学校】

4月18日(火)に全国学力・学習状況調査(国語・数学・英語 ※英語は4年に一度実施)が、3年生を対象に実施されました。加えて今回、英語の「話すこと」(※生徒は各自ヘッドホンを着用し、タブレットから流れる英語の質問に対し、付属のマイクに向かって英語で回答する形式の調査)も初めて実施されました。

実施時間については、国語・数学・英語すべて50分間で、内容は、知識に関する問題や活用に関する問題が織り交ぜられた形で出題されました。英語「話すこと」の回答時間は5分ほどでした。(※英語「話すこと」の調査は、4月18日とは別日で実施しました。)生徒質問調査は、タブレットに回答する形式に変わり、生活の様子、学校や家庭での学習状況等を問う内容を回答しました。

以下に、本校の今年度の結果の分析をお知らせします。

学力状況の結果について、まず平均正答率で見ると、国語・数学は全国平均を少し下回りましたが、大阪府平均と同程度、英語は、大阪府および全国平均を下回りました。英語「話すこと」は全国平均と同程度でした。

ついで無回答率で見ると、各教科とも大阪府や全国に比べて無回答が少なく、生徒は諦めずに問題に挑戦していたことが見受けられました。

今回の調査結果を、今後日々の授業に反映したいと思います。

生徒質問調査の結果を大阪府や全国と比較した結果、本校では次のような特徴が見られました。

<肯定的な回答の割合が高い質問項目>

- ・将来の夢や目標がある
- ・いじめを認めない
- ・学校へ行くのが楽しい
- ・友達と協力するのが楽しい
- ・先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う
- ・困りごとを先生に相談できる
- ・自分と違う意見について考えるのは楽しい
- ・地域や社会をよくするために何かしてみたい
- ・学級活動の課題で、互いの違いのよさを生かして解決している



<肯定的な回答の割合が低い項目>

- ・毎日、同じ時刻に寝る
- ・家で計画を立てて勉強をしている
- ・先生はテストなどで間違えたところなどを、分かるまで教えてくれる
- ・英語の授業以外で、日常的に英語を使う機会が十分にある
- ・1,2年生の授業で、自分の考えを発表する場面では、資料や文章、話の組み立てを工夫して発表した
- ・授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている



◆続いて、各教科の分析です◆

【国語】

平均正答率と比較すると、本校の平均正答率は全国の平均を少し下回りましたが、大阪府平均とほぼ同程度という結果でした。

領域別では、「書くこと」以外、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「我が国の言語文化に関する事項」「情報に関する事項」「言葉の特徴や使い方」において、大阪府および全国の平均とほぼ同程度でした。問題形式別に見ると、選択式・短答式及び記述式の問題の全てで、平均正答率が全国および大阪府の平均をやや下回りました。

今回の結果を受けて、具体的な情報と抽象的な情報の関係について理解する課題や、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことのできる授業づくりをすすめていきたいと思ひます。



【数学】

平均正答率と比較すると、本校の平均正答率は、大阪府および全国の平均をやや下回る結果となりました。

領域別に見てみると、「数と式」、「データの活用」「関数」の分野では全国平均と同程度でしたが、「図形」の分野では、全国平均を下回る結果となりました。

設問ごとに見てみると、「数と式」の分野の問題場面における考察の対象を明確に捉える問題では、全国・大阪府の正答率より大きく上回る結果になった反面、「図形」の分野で、空間における平面が同一直線上にない3点で決定されること、ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する問題の正答率がそれぞれ全国平均を下回っており、課題の残る結果となりました。

総合的に見て、数学的な「知識・技能」に関して、日頃から授業の冒頭の小テストなどの実施を通して、基礎基本の定着を図り、「思考・判断・表現」の定着の為に「筋道を立てて考えること」や「自分の考えを、根拠をもって説明すること」を大切に授業や課題設定をすすめていきたいと思ひます。



【英語】

本校の平均正答率は、大阪府および全国の平均を下回る結果となりました。領域別にみると、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」のすべてにおいて大阪府および全国平均正答率を下回りました。

問題形式ごとに分析すると、「記述式問題」の平均正答率が大阪府および全国平均を下回りました。具体的な設問では、社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書く、日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書く問題の正答率がそれぞれ全国平均を下回っており、「書くこと」において課題の残る結果となりました。

新たに出題された「話すこと」は、全国の平均正答率とほぼ同程度の結果でした。

今回の結果を踏まえて、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の定着を図り、加えて「書くこと」の確実な定着を目指した授業づくりをすすめていきたいと思ひます。